

今回、塩屋先生の講演を初めて聞きました。

絵本は、子どもたちにとっても、保育者にとっても、とても身近なものであり、とても興味のある講演会でした。

私は、絵本を役になりきり、強弱をつけて読んで、読むと、

子どもたちが絵本の世界に入り込め、集中できると思っていました。

しかし、塩屋先生が言っておられたように、子どもたちそれぞれが色々な捉え方で絵本の世界に入ることができるとは、と

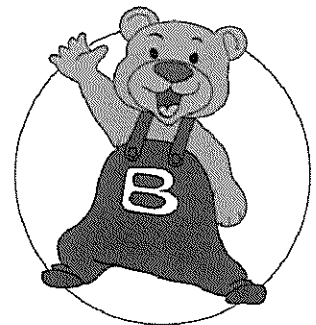
思っていました。子どもたちが集中して聞くというより、興味を持って、も、と見て、と思うことが大切だと思っていました。

また、絵と話の内容が合っていない絵本があると聞き、

今まであまり考えずに見ていたため、おどろきました。

魔女の恐ろしいところなのに、優しいおばあちゃんの絵が描かれており、恐ろしさが伝わらない絵本と、魔女の恐ろしさが何倍にも感じられる絵の絵本があり、絵本の内容だけでなく、絵も大切なのだと、と感じました。

これからも子どもたちの大好きな絵本、絵本の時間を大切にしていきたいと思えます。



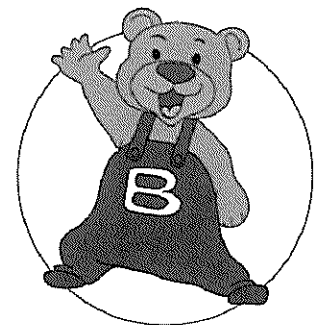
今回、絵本の選び方や読み方について話を聞かせていただいた中で自分の子ども時代と今、保育でどうしているのか考えながら聞かせていただきました。

小さい頃に絵本を選ぶ時に絵が可愛いという理由で選んで読めど難しく面白くなかったと感じたことがあり、大人と一緒に選ぶことが必要になる場合があるという話になるほどと感じました。

子どもと一緒に選ぶ中で子どもにも選んでもらいながら私も選ぶことで面白い絵本や絵本を読むことを楽しめるんだと考え、一緒に楽しんで読めるよう、日々の保育の中でも選んだり、読んだりしていきたくと思いました。

絵本を読む中で私は今まで登場人物ごとに声色を変えてみたりと演じながら読むようにしていました。話の中で頑張りがすぎずに読む、芝居を楽しむ物ではないとあり、確かに頑張りがすぎると、絵本の内容よりも“声が大きかった”“こわかった”と内容に対する印象が少なくなってしまうと思い、そして頑張らなれないと保育者や読み手が楽しんでいないと子ども達も楽しむことはできないと感じました。

今日は絵本を子どもが楽しめ方にはどうしたらいいのかについて話をさせていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。



講演を聴かせていただき、絵本の選び方、読み方など改めて学びに  
したいことなどたくさんありました。

絵本の選び方については、つい自分が好きな絵本ばかり、好きな作者  
の絵本ばかりと偏りがちだったのではないかと、今後の自分を振り返り  
ました。

塩野谷先生が紹介された絵本の中には、日本語だけでなく言葉の  
響きの素晴らしい絵本もたくさんありましたので、改めて読み返し、  
子ども達と一緒に楽しみたいと思います。



## 子育てひろば21 講演会 感想

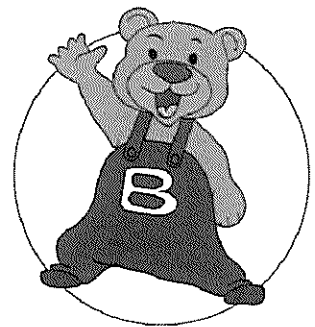
今回は絵本についての講演でした。見方、読み方、選び方、これとこれ先生の言われていることに納得する内容でした。

特に私が反省したのは読み方で、本にアクションで、これも感情を込めて読んでいて、子どもたちの驚いたり、喜んだりする表情に満足していた自分がいました。どうしてかと、サッと読むことで、絵を見て、子どもが感じとること、絵に集中できるように読み方の大切さを改めて知り、勉強になりました。

また、実際に絵本を使っている講演だったので、絵本の選び方も何に注目すればいいか、どのような所がいいかわかるかと先生よりわかり、参考にしたいと思います。絵本とは、絵とストーリー性を兼ねたもの、言葉と絵の総合芸術ということ、子ども自身が見て、聞いて感じとることの大切さを改めて深く感じました。

私は学童、小学生を中心とした関わりなので、絵本と読み聞かせの機会が今は少ないとありますが、今回の講演が学んだことを忘れない、今後の保育に生かしていきたいと思っております。

ありがとうございました。



今回の講演を聞くまで、絵本の選び方について

深く考えたことがありませんでした。

子どもに絵本を選ばせて 本を言読んであげるといのが

あったが講演を聞いて きちんとした目をもっている

大人が 選んだ本を言読んであげること大切だと

と思いました。

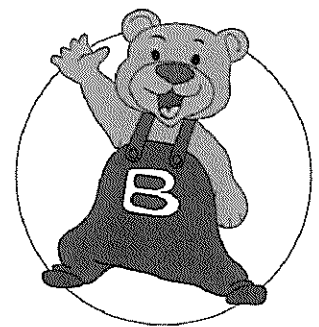
私が小さい頃に言読んでいた絵本が良い絵本で

紹介されていて自分に子どもができた時にも

言読んであげたいなと思いました。

今回は貴重な話を聞かせていただきありがとうございます

ございました。



絵本の見方、読み方、選ぶ方 について 感想文。

絵本の読みかきかせの大切さは、わかってはいたが、たんと読み進めていく事が大切。ムリに演じなくてもよい ということ聞き、ハ、としました。

わりと感情移入して読んでいた事もあり、少し大きめに伝える事もあるかと  
思い、反省しました。

また、同じ絵本でも、こぼれ絵が調和しているか、という視点で見ると、

全く違う解釈のものもある。という所を、どのような絵本が良いのか

丁寧に教えて頂き、とても参考になりました。

また、子どもたちが、くり返し読んで、と持ってくるものには、やはり、

こぼれの響きが良いものやリズムのよさが引き立つものが多いなと

感じました。

4.4.5のリズムのよさを頭におきながら、絵本を選んでみたいと

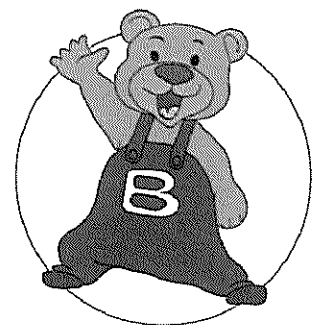
思いました。

絵本を読む時の持ち方や、読んでから呼吸あいて、次のページを

めくる。ということ、見る側の立場に立って読んであげる。と、普段の保育の

中で、自然に身につけらるるよう意識していきたいと思っております。

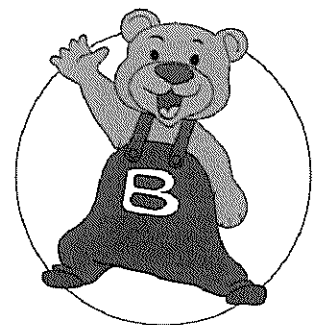
ありがとうございました。



## 「絵本の見方・読み方・選び方」

### 塩野谷春先生 講演会の感想

- ・子どもは絵本を選ぶ力が充分ではないので、子ども責せにせよ”  
大人も選ぶ事が大切である。
- ・絵本から色々な事を学んでいる。だからこそ選び方が大切な事。
- ・絵本は、感情を込めず”に淡々と読む方が良いとの事。  
すごく感情を込めて、読んでいたので反省しました。
- ・読んでいる途中に、質問したり、感想を聞いたりしていたので  
余計な事をしていました。
- ・子どもが好きな絵本はかたまり破れたり、汚れていたり、  
してきます。そんな本は保育者が見てもおもしろいのであ。
- ・絵本は奥が深いのだと先生の話しを聞いて思いました。  
表面だけでなく、絵本の言わんとある事を考え、感じられ  
たらと思います。
- ・本をもっと読みたいと思われました。色々な本を！



子育て広場 2 1 講演会「絵本の見方、読み方、選び方」

前回の講演会では、「将来まで責任のある仕事」という私たち保育者の仕事の大切さ、責任の重さを改めて感じました。そして、今回は子どもとの関わりの中で身近である絵本について学ぶことができ、絵本に対する考え方が広がりとても参考になりました。

特に印象に残っていたのが、選ばれた言葉や絵でストーリーを作る芸術作品であり、「少ないページや文字数で相手に話を伝える」という内容の話でした。これは絵本に限らず、子どもとのやりとりにもつながるような気がします。子どもの年齢や理解力に合わせて伝え方を変化させることは意識しますが、ついつい言葉が多くなってしまいう時があります。相手に伝えるため、相手が理解するためにはどのように伝えたらよいか、言葉や動き、表情の選び方が本当に大切であると感じました。

また、「ベストセラーよりロングセラー」という言葉も印象的でした。私は絵本を選ぶ際に、題名や絵本に付いている帯を読んで選ぶことが多いです。読んでみて良い内容の時、そうでもなかった時のそれぞれがありますが、ロングセラーのものは、やはり読みやすく、何度読んでも子ども達は興味を持って見ているような気がします。もちろん、最近の絵本でもよい内容であったり、目の前の子どもの興味をひくものであったり、ちょうど保育者が子ども達に伝えたい内容のものであったりしますので、子ども達の興味や感性に響いたり広がったりするもの、保育者の思いが伝わるものを選んでいきたいと思いました。





塩野谷先生の「絵本の見方・読み方・選び方」を聞いて

塩野谷先生の話を聞いて、子どもが選んだ絵本を読んであげる

ことはいいことだが、子どもには絵本を選ぶ力がまだなく、

大人が子どもが読みたいと思える本を選んであげることで

いいとわかった。また、絵本を読む時は、表情や声をあまり

変えないほうがよいことや、読み終わってから「何ができて

た？」などと質問をしてしまうと子どもたちは、絵本を読む

と何か聞かれる、内容を覚えておかないといけな

いと思ってしまうこともわかった。日頃の自身読書や聞かせ

を繰り返ると、子どもたちに絵本の内容を聞いている

ことが多い。子どもたちには、絵本を読むことは

楽しいと思えてほしいので聞き返しや確認を

しないようにしていきたい。また、絵本を選ぶ

時は自分自身も何回か読んで、言葉のリズム

言葉と絵が合っているか確かめておきたいように

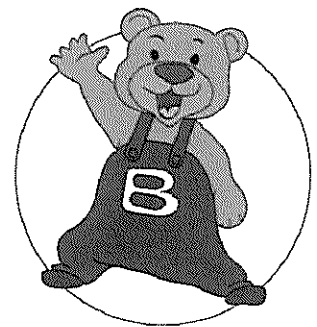
していきたい。



## 講演会を聴かせていただきました

講演会の中で読み方について 保育者が楽しく読むと子ども達も  
興味を持ち楽しく読むという事 普段から楽しく読んでいくつもりで  
カバーアソビに付いてしゃべりながら進めさせていた...と鬼...さん。  
絵本は内容だけでなく 絵も大切という事 子ども達にも...絵本を  
選んで読んでいた...と鬼...さん。

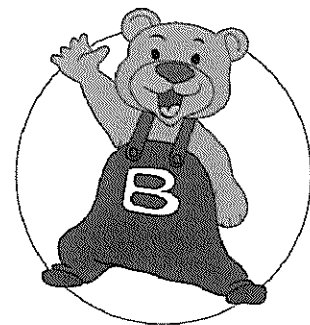
一冊一冊を大切に 子ども達に伝えていた...さん。



保育の中で絵本を読むことは毎日必ずあり、私は  
どんな絵本を読んだらよいか悩むことがよくあります。

塩野谷先生のお話の中で言葉とは意味・響きと  
あるというお話がありました。リズムがいい言葉の本は  
読んでいる方も心地良く、見ている子どもも興味をもつ  
集中して聞くことができるように思いました。そして、  
読み方について、私は大げさに読んだり、声色を  
変えて読むことがよくあり、子ども達が絵本よりも私の  
顔を見ていることが時々ありました。紙芝居はお芝居  
だから声色を変えるなどの演出が必要だが絵本には  
その必要はなく、あさり読むことが絵本を楽しむ読み  
方であることに目からうろこでした。

今回の講演を聞かせていただき、子ども達が喜ぶ絵本は  
どんな絵本か、どのように読むと子ども達が興味をもつのか  
とでも参考になりました。自分でたくさん絵本を読んで  
リズムが良く、物語と絵が合っていると面白いと思った絵本を  
子ども達に読んであげようと思います。



塩野谷先生

“絵本の見方・読み方・選び方”を聴いて

塩野屋先生が、わかりやすくお話して下さい。これから、絵本を選ぶ  
時にとても参考になりました。

いつも絵本を選ぶ時、どれにしようかなと迷っていました。どうしても選ぶ  
人によって、かたよりがちになっていました。絵本を購入する時も、すごく迷っ  
ていました。先生がお話されたように、絵を見たり、文を読んでも内容の  
気に入ったものを選んでいました。選んだ絵本を、子どもたちから喜んで  
見てくれると、すごく嬉しく思いました。また、同じ絵本を、何回も  
「よんで、よんで」と言われると、もっと嬉しく、語尾を真似たり、言葉を  
覚えて言ったりと、こうやって絵本を好きになっていくんだと「よ」と思いました。

絵本の読み方も、とても参考になりました。絵本を読んでもあげるとき、  
実践していきたいと思えます。お話の最後に、絵本は、読みせるもの  
でいい、読んであげるもの“絵は目から、言葉は耳から”と言われました。

この言葉を頭におきながら、子どもたちから  
絵本が大好きになれるよう、絵本を読んでも  
あげたいと思います。ありがとうございました。

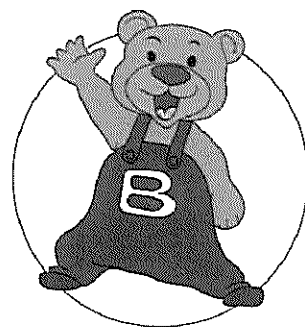


塩野谷先生の話しを聞いて、絵本が子ども達に  
どれだけ大切な役割をはたすのかわかりことが  
できました。例えば、ラフニエルが昔話しでも色々な  
人が読んでるので選ぶものによれば内容が  
違ってみたい。登場人物が違うということもわかりました。  
子どもに絵本を読む時は、ラフニエル1つと、でも  
読んでくれる人が違えば子どもの耳に入る内容も  
変わってくることをわかりました。なので先に自分で内容を  
たしかめたりしてやることで子どもが聞きやす  
くなるんじゃないかと思いました。

塩野谷先生が言っておられた、「子どもは絵を讀ん  
でいる。」という言葉がとこも心にのこりました。なので  
工夫して 微妙に間をおいて読むということが  
大切だとわかりました。子どもは絵を見ているので 声りと  
絵を見て理解するのは少し時間がかかるなと考えました。

なので読み聞かせをする際は子どもが聞きやす  
く、絵をしっかりと見ながら内容が  
頭に入ってきて楽しく絵本が見れる  
ようにしたいと思いました。

今日のお話しを聞いて、自分が読み聞かせ  
をする際は工夫して子どもように意識して  
いきたいと思いました。



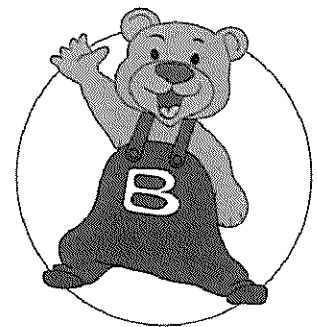
今日の講演で心に残ったことは、「ストーリーと絵が合っているか」という点のお話です。

絵本は、子ども向けに作られているものなので、今までには、「可愛い絵」「子ども向けの絵」の絵本が良いと思っていました。でも、ストーリーに可愛い絵が本当に合っているのか、例えとしてラフンツェルやかちかち山のお話を聞いて、「確かにこの絵は違うな」と、ストーリーにふさわしい絵なのかどうかを考えることができました。子どもが見るものだから可愛く、優しい絵にしていると、ストーリーの良さがなくなってしまうことに気付きました。考えながら絵本を読むようにしてみると、意外とストーリーと絵があまり合っていない絵本というのはたくさん見つかるのかもしれないと感じました。普段子どもたちに読む絵本を選ぶときは、季節感や、年齢に合っているかなどを考えながら選んでいりましたが、絵やストーリーのことも気にしながら、今後は選んでいきたいと感じました。



## 「絵本の見方・読み方・選び方」

この度、塩野谷先生のお話を拝聴して、自分の日々の保育の中での絵本選びや読み方を振り返り、反省すべき点がたくさんあることに気がきました。まずは絵本選んでですが、どうしても子どもが好きな挿絵や内容に偏りがちでした。読み方では、感情を込めればよいと思っていたので、「感じることは子どもに委ねる」という言葉を聞き、なるほどととも勉強になりました。本をめくる向きや手など、この度教えて頂いた方法を実践してこころ、子どもが絵本の読み手かせにととも集中して見入るようになり、「絵本の世界」を楽しんでいる様子がよく伝わってきました。これからも今までとは違う目線で絵本選んで、自分自身も楽しみながら読んであげたいと思います。



---

## 塩野谷斉先生の講演を聴いて

---

いろいろな本の紹介と、先生の楽しいお話で、絵本の奥深いものを知ることができました。

「絵本の読み方」について、私は反省する事がありました。それは、感想は聞かない。という事。「面白かった?」「どう思った?」などついつい聞いてしまっていました。先生から“子どもは思った気持ちをうまく表現できずに苦しむ事がある”と聞いた時、面白いやつまらない、それだけではない複雑な感情もあるなと気づかされました。

「絵本の見方、選び方」については、巧みな技法で、大勢の人が楽しめるように作られていることが分かりました。絵本の良さを最大限に表現し、読むことが出来るようになりたいと思いました。

25才になる娘に「小さい頃読んでもらった本で覚えているのある?」と聞いたところ、「キツネが手ぶくろを買いにいくやつ 表紙が紫っぽかったと思う」。驚きでした。ボロボロになるまで読んだ本ではなかったのです。その本は、絵を黒井健が描いた暖かい感じがする、私が好きで買った本でした。私が好きなので、本が傷まないように大事に読みました。ボロボロになるまで…なんて読んでいません。「可愛いね、よかったね」など感情の押しつけもした覚えもないのですが、娘はこの本が思い出にあり表紙の色まで覚えていました。何十年も経ってから聞いたその言葉に、心が熱くなりました。

言葉と絵の調和は  $1 + 1 = 2$  でなく、3以上になる…

この本は、私と娘の思い出にもなりました。

子ども一人ひとり 本の好きなポイントが違うと思うので、  
いろんなジャンルのたくさんの本を読み聞かせ、たくさん好きな本が出来たらいいなと思いました。





～塩野谷先生の講演会を聞いて～

絵本の見方、読み方、選び方という内容がとても詳しく聞かせていただき

ました。よい絵本とは、①言葉がよいこと ②絵がよいこと ③言葉と絵が

合っていることと言われ、おどく納得できました。言葉の響きがよく、文章

がリズムカシなところが、子どもは何度も見たいなと思うだろうし、スタートと

絵が合っていると、内容がきちんと理解できるだろうと思いました。

「三つ子のやぎのがらがらどん」のはやしがありましたが、和訳は、

橋を渡るときの音の表現が、小、中、大とそれぞれ違い、その表現を聞く

だけで、やぎの大きさを想像することが出来ます。しかし、英文だと、すべて

同じ表現で書いてあると聞き、日本語の表現のゆたさを改めて感じました。

絵本の読み方についても、つい感情を込めて読んでしまいがちですが、

あつさり読む方がよいと聞き、これは新たな発見でした。

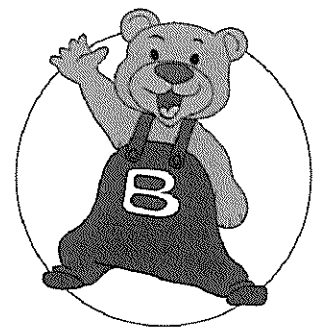
私はこれまで、表紙で本を選ぶことがよくありました。しかし、中を見て

選ぶというのがいかに大事かということがわかりました。

いろいろな絵本を読んでみて、子どもたちに読んであげたいなと思う

お気に入りの1冊を見つけられればなと思います。

講演会に参加させていただきありがとうございました。



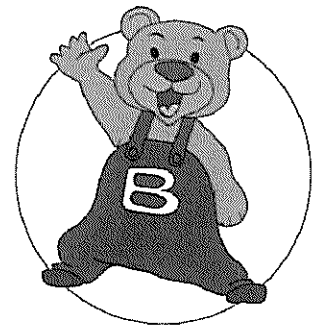
「絵本の見方、読み方、選ぶ方」

今回、塩野谷先生のお話を聞かせてもらい、改めて絵本について考えることができました。

つい何気なく絵本を選んでしまうことがあるが、絵本一つで子どもたちは、色々なことを感じたり、学んでいるのだと思った。保育者の絵本の読み方でも、保育者が楽しく読むことで子どもたちの興味や感心を持てるよう、読み方など工夫して一冊に楽しめるようにしていきたい。又、表紙や裏もしっかりと子どもたちに見せることが大切だと改めてわかりました。

子どもたちの“こねふで”、“もう一回”という言葉大切にしながら、よい絵本を選ぶ保育者になれるよう、日々の保育の中でいろいろな絵本を子どもたちと見ながら勉強していきたいと思いました。

ありがとう ございました。



## 講演「絵本の見方、読み方、選び方」

・絵本について、分かりやすく、楽しく、お話しが聞けました。

・絵本もいろいろあるので、どの本を選べばいいのか、解らなりました。絵本なので絵も大事ですし、もちろんだ、言葉も大事、表現力も大事です。

特に子供も絵と、言葉と見ることがあるので、絵ととくに、大事だなあと思いました。先生が言葉に合う絵とあわない絵があると言われましたが、言葉に合う絵の方が、見やすく、わかりやすいと思いました。

本の読み方も、感情を、こめず、「あざり」読むと言われました。子供に読む時は、むしろ、すごく感情を入れて、つい読んでしまっていましたか、あざり、読むうまい、いい事が、わかりました。

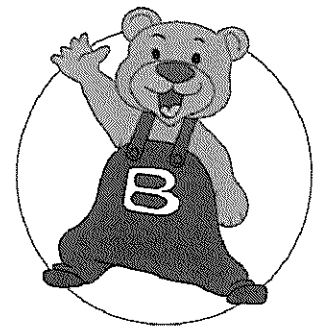
・絵本について、すごく、よくわかりました。

・これから、絵本を選ぶ時の参考にしたいです。

・絵本について、すごく、勉強になりました。

・最後に、講演が聞けて、とても良かったです。

ありがとうございました。



「絵本の見方・読み方・選び方」

講師 鳥取大学地域学部

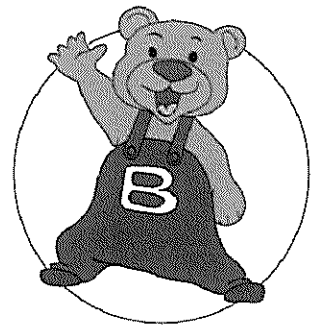
塩野谷 育

今回、沢山の絵本を紹介していただき、絵本の選び方や読み方、見方をあらためて見直すことができました。

筒井頼子先生と林明子先生が一筋目に描かれている絵本はとても好きで、文も絵も読んでいてほっとする絵本だと思ってよく見た。園でも読む機会が多く手にしていました。しかし、絵本の細部まで目を配ることはなく、先生が話されていた運命について背景によつての抑揚のつけ方に気付くことがなく見落していました。

これから子ども達に読む前には絵本の細部まで目を配り、作者の気持ちを受け止めながら、自分なりに理解した上で読み聞かせをしていけたらと思います。絵本を大好き、興味がある子を育て、感性豊かな成長を育む

手伝いができたらと思います。今度の講演会を視聴させていただきました。貴重な時間を有難うございました。



子育て広場 2 1 講演会

テーマ「絵本の見方・読み方・選び方」 講師 「塩野谷 斉 先生」

塩野谷先生のやさしく語りかけるような口調で、絵本のお話をお聞きし、心地よく「あー、すぐに絵本をよみたいなあー」と気持ちになりました。

こんなに詳しく絵本の話をお聞きする機会を頂き感謝しております。

絵本は、読書の入り口である。絵本に触れていないことは、文化的貧困である。と話された。私の幼少の頃を振り返ると、保育園でも家庭でも、今のようにたっぷり絵本に触れる機会がなかったように思う。やはり、どんどん時代は良くなってきたいるんだなと思った。

絵本は、子どもも大人も楽しめる絵本。よい絵本とは、言葉がよい（意味と響き）。絵がよい。言葉と絵が合っている。そうだなあーと実感した。

子どもに絵本を選ばせる、大人の選んだ絵本も読む。子どもには、まだ何度も見たくなるような本当におもしろい絵本を選ぶ力がないからと話され、自分の中ですっきりとし、整理して頂いたようだった。それだけに、私たちの関わり方の大切さも実感した。

絵本は、読ませるものではなく、読んであげるもの。感想は聞かない。あっさり読む。ページのめくり方等たくさんのポイントやヒントを伝えていただいた。

まずは、私自信が絵本の世界をたっぷり楽しみ、よい絵本にたくさん出会い、文化的な生活を過ごせるよう整えていきたいなと思った。



## 講演会 感想文

今回の講演会では、「絵本」がテーマで、普段の保育での絵本選びでとても参考にしたいと思った。

お話を聞いて、やはり絵本というものが子どもにとって大切なものであると改めて感じた。その為、絵本を読む時間を、

自分自身を大切にしないといけないと思う。大事な時間にする為に、どんな絵本を選ぶか... というのが重要である。

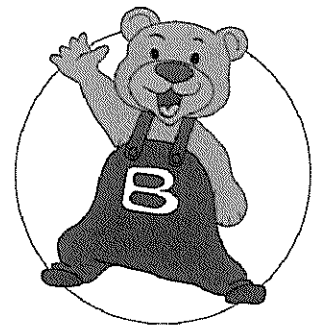
絵本選びで重要なのは、ストーリーと絵が合っているか、言葉の意味と響きが良いか、言葉と絵が合っているか、この3点を意識し、選んでいきたい。

しかし、良い絵本を選んでも、読み手の読み方によって、子どもが心地良く絵本の世界へ入っていけるようにしなければならぬ。感情的に読むのではなく、ストーリーを切り抜くようにすることを知った。また、

良い絵本、あまり良くない絵本を、写真とともに紹介してくださり、参考にいただいた。「はじめのおつかい」では、自分を好きな絵本で、(77の絵の中に面白いイラストがあったり、絵本の世界へ入り込みたいような表現があったりと、

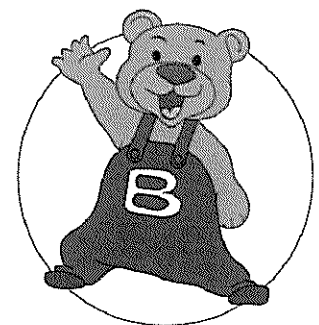
わくわくするような絵本で、子ども達にもどんどん読んでいきたいと思った。

日々の保育で、先生絵本読んでという子どもに、(しっかり) 良い絵本に触れていて貰いたいと思った。



今回、塩野谷先生の講演を聞かせていただき、  
家庭や園で絵本を十分に楽しむことの大切さにつ  
いて学ぶことができました。私は今回の講演を  
聞くまで、“よい絵本”とは何なのか全く想像が  
ついていませんでした。しかし、講演を聞き、“よい  
絵本”とは、おとなと子どもが、心地良いリズムで、  
ストーリーを楽しむことができるものであるということが  
分かりました。世の中には、同じタイトルの絵本でも、  
ストーリーと絵が合っている絵本と反対に、ストーリーと  
絵が合っていない絵本があるということを初めて知り  
ました。保育者等のおとなは、それを踏まえて“良い  
絵本”を見極めていくことが大切であると感じまし  
た。また、絵本の読み方については、おとなは感情  
を込めすぎず、むしろあっさり読むことが大切であると  
知り、驚きました。子どもは絵本の内容よりも、案外、  
絵本を読んでいる保育者等のおとなの読む姿を  
みているということを知り、子どもと絵本を読む雰囲気、  
時間を大切にしながら、子どもと  
関わっていきたくて思いました。

今回の講演で学んだことを今後の保育に  
生かしていきたいと思えます。本当に有難う  
ございました。



今回は保育士ではなくても絵本の素晴らしさと  
おもしろさを知る事の出来る講演でした。

絵によって場面が明るくも暗くも表現され文字の響き  
により大・小が表現されたり一番感動したのが  
三日月と満月による表現と絵本の表と裏表紙の  
大切さで特に裏表紙まで見た事がほとんど無く  
裏表紙まで見て初めて物語が終わる事そして裏表紙  
に内容と結末が全て込められている様な気がして  
絵本の持つ力を知り保育士ではないので  
子ども達に読み聞かせる機会は無いか  
孫に実践してみようと思う。





私が幼い頃から絵本が好きだったのは、母親や保育者にたくさん絵本を見せてもらっていたからなのだと感じました。

私が読んで楽しいおもしろいと思う絵本を増やして、子どもたちに多くの絵本を読みたいのです。絵本を選びとる力をつけるために、これからたくさん絵本を言読んでいきたいと感じました。子どもたちは、絵から情報を得て、絵本をみていて、ストーリーと絵が合っていない絵本は子どもにとって、理解の妨げになっていたのだと感じました。私も絵本を選ぶ時は言葉と絵が合っている絵本を選んでいきたいと思います。「はじめてのおつかい」の最後のページで女の子の顔が見えないことがなぜかわからなかったのですが、塩野谷先生のお話を聞き、表紙の顔が、最後のページの顔だと聞き、驚きました。表紙には、色々大切な事がつまっているのだと改めて、知ることができました。絵本を子どもに読み聞かせをする時、表紙や裏表紙も子どもたちに見せていこうと思いました。今日の講演で私かまだ知らなかったこと、絵本の大切さを学ぶことができました。選ぶだけでなく、子どもへの絵本の読み方を日々勉強していき、よい絵本をたくさん読んでいきたいと思います。私は、間をきちんととるようにしていきます。講演会に参加できて良かったです。私の読む時の問題点も知ることができたので、これから直していきます。



この度の講演に参加して絵本についての考え方が変わりました。  
古くから読み続けられているもの、その年で話題になっているもの、絵も  
自分の好みで選んでいました。

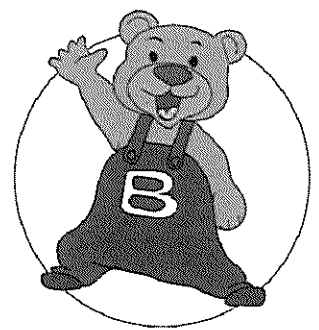
子育てもほぼ終わり、改めて感じたのは、1冊の本に対して、  
いろいろと考えさせられるんだと驚きや発見がありました。文章と  
絵が本当にマッチしていること、読む時は「あ、さり」読むこと、  
ベストセラーよりロングセラーであり、奥付を確認すること等々……。  
絵本に対する認識が大きく変わりました。

日本には、大人が読んでも、本当に涙し、感動し、素晴らしい  
絵本が沢山あります。私も自分の為には、絵本が何冊か  
あります。

子どもの年齢によっては、絵から入ってくる本、言葉から伝わる本、それ  
ぞれあると思います。絵と言葉両面から伝えることができる、とても  
素晴らしいのでしよう。そしてそれを伝えるのが大人の役目であるとい  
うこと……私たちに大人はもっと沢山の知識を必要とするんだと、気が  
かきました。

私は保育士ではないので絵本との関わりは少ないですが、たとえば  
誰かに絵本をプレゼントする時、講義を  
受けた内容を必ず生かして選んでい  
たいと思います。

ありがとうございました。



今回の講演を聞いて、絵本の絵の大切さや絵本のカガビネが子どもたちに影響するかわかり勉強になった。絵本の作者は背景の糸田かい所しにまで工夫していて、主人公や登場人物の気持ちや表れていることがとても印象的だ。裏表紙までにも物語が繋がっていたりするので、絵本を隅々までしっかり見てもらえよう（に）していきたい。絵本を見て、一人ひとり想うことは違ふし、言葉では言い表せない感情もあると知り、これから（は）感想は聞かず、子どもたちが言葉との矛盾を感じないよう（に）したい。

日々の中で子どもたちが好きそうな絵本を何となく読んでしまっていることがあるので、いろいろなジャンルの物を選んでみたり、絵がよく伝わるか、矛盾していないかしっかりと確認してから言売むよう（に）したい。又感情を込めすぎて読んでしまっていることもあるので、考えてもらったようにあさりと言売むよう心掛けようと感じた。

絵本を選ぶ、ということ（は）もっと責任のあることで、子どもたちが聞いて心地良かったり、何度も見たいと思えるような絵本に出会えるよう（に）していきたい。



子育てひろば21 「絵本の見方・読み方・選び方」講師：塩野谷 春先生

今回の講演会の内容はすく日々の保育に活かす

ことが出来る内容でした。絵本は毎日読んでい

ますが、私の入っているリズム組では、音に合わせて読む

リズム絵本を取り入れています。子どもたちから

興味を持ってじっと見入るのは、0歳児にとっては

ストーリー物より耳で目で楽しめるものが合っている

と感じました。また、同じ物語でも少しずつストーリー

が違ふことが違和感に感じることもあり、絵本

1つでもこうも変わるのかと知りました。

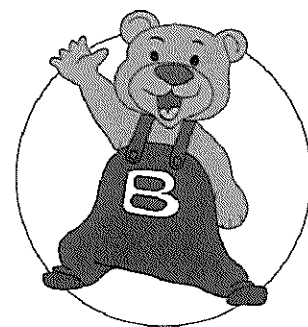
子どもにどのような絵本を読もうか悩むことが

多かったのですが、塩野谷先生の言われたとおりで

大人も楽しく読める絵本に出会いたいと思ってい

ました。今回は貴重な話をありがとうございました。

ました。



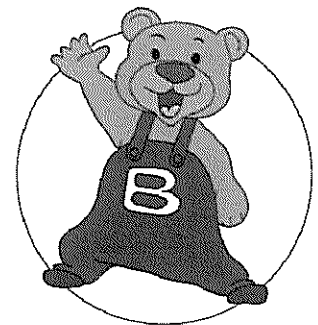
「絵本の見方・読み方・選び方」の講演を聞いて。

何年も絵本を読んだり、選んだ事がなかったのですが、  
今までは、自分の絵の好みや絵本の雰囲気を選んで  
いました。絵とストーリーが合っている、言葉(意味とリズム)  
などあまり考えていませんでした。

先生が講演の中で読まれて、おもしろい、おもしろくない  
は大人の前でも感じるのだから、きっと子ども達もそう感じる  
のに、違くないと確信する事が出来ました。

また本の持ち方も持ちやすい右手ばかりで持っ  
ていましたが、縦書き絵本は左手に持つという事を  
知る事が出来ました。

子どもそれぞれで好みはあるけれど、絵本を  
たくさん読み聞かせてあげたいと思いました。



## 講演会の感想

塩野谷先生の講演を聞いて、普段何気なく言っている糸会本でも、表紙・裏表紙・1ページ1ページの糸田かい所までいろいろな意味を持たせてあったり、いろいろな工夫がしてあるんだなと気付かされ、糸会本のおもしろさを改めて感じました。

子どもたちがよい糸会本にたくさん出会えるように、私自身もたくさん糸会本に触れたり見たりしてよからよい糸会本を選ぶ力を身につけていきたいと思っています。

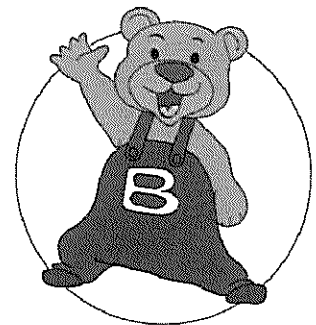
保育園でも家庭でも子どもたちと一緒に糸会本の時間を楽しみたいです。



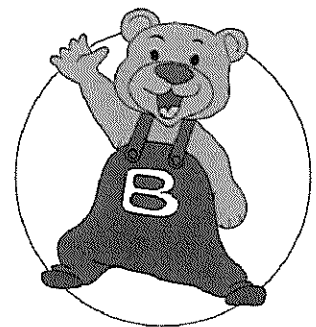
絵本の見方・読み方・選ぶ方

鳥取大学地域学部 塩野谷 育氏

今日、先生の絵本に関するお話も聞いて、絵本に対する理解を深めることが  
できました。わか家にもたくさん絵本がありますが、絵本の“絵”に込め  
られている意味や奥深さもあまり考えたことがなかったのも、今まで子どもにその  
よさを伝えて読み聞かせてこなかったのではないかと思いました。それに加えて  
絵本を読むということに対して私がこだわっていたやり方は、先生の今日の  
お話で、間違っていたのだということも気がきました。絵本を読むときにあまり  
にも感情を込めていたので、今までそれがよいと思っていたが、違いました。  
先生の言われるように、おぼけや怖いお話で感情がこもってしまうので、おぼけ  
に対してこわがってしまうように感じたのは、絵本の読み聞かせがほんたにた  
たのしみではありません。わか家に、大人でもページをめくったらぞろぞろこわい山  
ばの絵がある絵本があります。“三枚のおふた”で、口が耳までさけて目がずどく  
とからって口から血も出ています。幼児の子どもになんてこんな怖い絵も。と  
思っていたが、先生のお話をきいて、納得することができました。それに、そんなこ  
わい山ばがでてくる絵本を何處も読んだからた  
ので、子どもの心理と絵本、とおもしろいなと  
今日のお話を聞きながら思いました。  
よいお話を聞かせてくださりありがとうございました。



講演を聞き、前回子ども達に対する読み聞かせの重要性を感じましたが、改めて、絵本や紙芝居の必要性を感じました。  
0、1、2歳児に対する読み聞かせの中では、興味を持って  
いる物が一人ひとり不気々だったり、絵本やイラストにまだ  
関心を持っていない子があったりして、 言いかたが  
でいい。この子にはこんな絵本がいいかな、この子は  
これ、等と、一人ひとりに合う絵本を探そうとしてい  
ましたが、先生の話を聞き、言葉のリズムがあったり、  
響きが良いと、自分が読んで心地良いものを  
提供する大切さをあの時気づき、思いました。  
絵と言葉が合っている、とか、リズムがあっておもしろいよ、  
等、自分自身気付いていなかったのですが、今後絵本の  
おもしろさを感じながら絵本選びをしてみたい  
と思います。

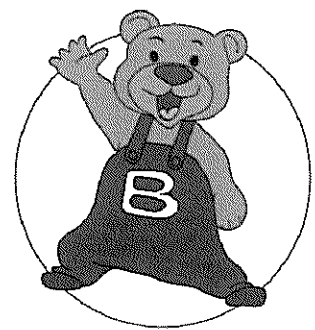




絵本の選び方を学べて良かった。これからの絵本選びにつなげていきたい。

言葉と絵が合っている・言葉の良さ・ストーリーに合った絵など、どちらも調和した上で良い絵本につながっていくんだと学びました。中身をきちんと見た上で子ども達に絵本を読んでもらいたい。絵本の読み方でも、少しオーバーに読んだりすることがあり、気付くことが出来て良かった。

この研修で学んだことを、これからの絵本選びや読み方につなげていきたい。



園内石開イサでは「絵本の見方、読み方、選り方について」学んだ。絵本は限られたページで子どもたちにどのように伝えていくかを考えた時、声の強弱や絵本の中の言葉を子どもと一緒に繰り返していくことで親しみを持つこと物や重カ物車など覚えていくことに繋がっていくと思ったことである。絵本の選り方として、子どもと大人も一緒に楽しめる絵本を探していくこと。「おたんごぱん」、「三匹きのやぎのからからどん」など言葉の変化や心地よいリズムで子どもの心に響く絵本であると感じた。絵本の読み方として裏表紙までしっかり見せる、ページをめくったら間をあけて読み、読み終わったら間をあけてページをめくること。繰り返されると、裏表紙をしっかりと見せていない時があり反省点である。絵本の見方として、登場者の向き大きさを表現する技法、描かれたものを読んで理解していくことが大切である学んだ。自分自身が絵本を読んで見ることによって伝え方や表現の仕方の理解に繋がっていくと感じた。絵本について学ぶことができ、子どもたちと一緒に絵本を楽しみ読んでいくこと、声の強弱、伝え方を練習していくことをより一層大切にしていきながら子どもたちに読んでいきたい。



「絵本の見方、読み方、選り方」についての講演会に参加して、

いままでは感情を込めて読むのがいいとおもっていたが、

「絵本は感情を込めすぎずにおろおろ読み」のこと。

絵本についていろいろポイントが学べたことが仕事に大いに

役に立ってくれると思いました。また、本屋さんでもっと

絵本を手に取り見てみようと思いました。

また自分も読みたくはる絵本をさがしてみようと思いました。



子育てひろば21講演会「絵本の見方、読み方、選び方」感想

子どもの発達にとって欠かせることのできない絵本について

貴重なお話をいただきありがとうございます。

子どもにとって絵本が重要なものであるということは理解し、

毎日の保育の中であたりまえのように読みかかせていた。

絵本ですが、今回の講演会でじっくりと勉強させて

いただき、改めて絵本の魅力に感心しました。

1つの物語に対していくつもの絵本があり、それぞれの

絵本の持つ意味やメッセージを具体的に紹介して

いただき、楽しく聴かせていただきました。

「よい絵本」というのは見目を持たた大人が選ぶ、

読むということを常に意識し、「もう一度見たい」

「何度でも見たい」という気持ちになれるよう、日々の

保育の中で取り入れていきたいと思っております。

ありがとうございます。



私は今後『絵本』と携わることと言えは、小学生が借りてきた物を読み  
あそびは、自分の子どもに読み聞かせなどちらかである。もともと私  
は本を読むのが好きではないので自主的に読むことはまず  
ないし、あったとしてもすぐやめてしまう。ほのこの講演会を聞い  
ていなければ、子どもにとっての良い絵本選び、良い絵本の読み方  
がわかっていなかっただと思う。『絵本』についてこんなに深く  
知れたのも、『絵本』が子どもにとってどれだけ重要な役わり  
であるのかも知れて良かった。『ストーリーと絵が合っているか』の  
テーマが私にはとても面白かったし、すごく納得できた。確かに  
絵を見、ストーリーを考えている子どもからすれば、『興』の  
部分であったり『悲しい・不安』といった暗い感情を暖色系  
を使い、明るくホッとする可愛らしい絵だと、本当に伝えた  
事だ。絵本としてのメリハリが欠けてしまっていると思った。  
ロングセラーのものは、いろんな出版社から出ているのでその分  
選ぶ方、見きわめ方が難しいと思った。そして読み方もつい本ハー  
リアクションで読んでしまうことがあるので淡々とあさりながら読む  
ことを意識しようと思う。今回の講演会  
は本嫌いの私ども楽しめた有意義な  
時間だった。



鳥取大学地域学部 塩野谷先生の講演を聴いて、子どもたちの発達過程や成長において「絵本」というのは必要不可欠であり絵本が与える要素がこれからの子どもの生活に大きく関係しているという事が分かりました。

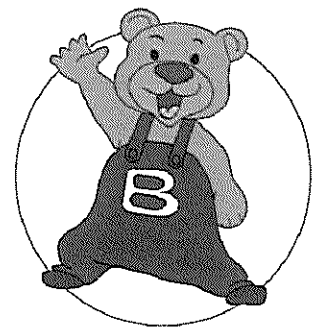
普段の日常生活の中で保育を行う中で関わりの多い絵本は安易に表紙などで選んでいてはいけないと聞いたことがありましたが、よい絵本には言葉だけではなく、言葉と絵が合っていることが重要であると知り、改めて考えていくきっかけになりました。

特に、心に残っているのが子どもと絵本を選ぶ時に大人も選んで子ども自身に「面白そう!」と思わせる意図的な関わりが大切だという内容です。どうしても子どもがあれこれ選んでしまいがちな絵本も、子どもの成長に合った本を見つけ子どもに選ばせ「これにしたんだね」と認めながら、「でも」「これも面白そうだよ」と声掛けして共有していく方法もあるのだと考えました。

絵本の読み聞かせにおいても、感想を強制せずに子どもたちから発した言葉に耳をかたむけて広げていくことが、必要だと思い、自らが行っていける様にスキルアップしていきたいです。

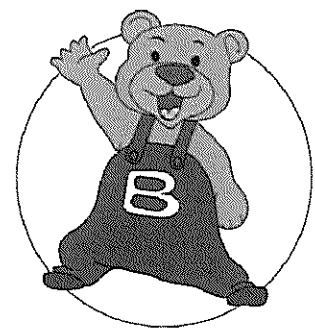
この度は貴重な講演をお聴きする事ができ、本当によかったです。ありがとうございました。

平成29年6月2日



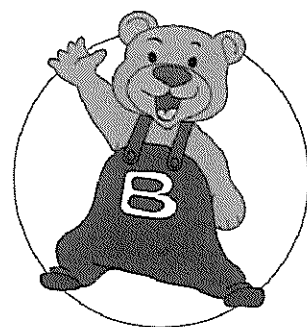
子育て広場講演会 感想文

絵本「はじめてのおつかい」の中に言葉と絵の調和がよく表れている「お母さんの忙しさ」を表すページには色々な情報が読み取れるのが面白いと思いました。単に文章を読むだけでなく、描かれている絵の中にも文章を補足するような表現方法があることに気付いて絵本の面白さを子どもたちと一緒に味わってみたいと思いました。



## 子育て広場講演会 感想文

- ・ 今回のお話しの中で一番自分の中で反響した事は、絵本を選ぶ時について  
親しめやすい絵本を選んでほしいがあのところがありたい。 「言葉と絵が合っていること」  
「言葉と絵の音同知」という話を聞いた。 パーティブックの言葉と絵を見て、（おわり）  
選んでいいけれどいいなと改めて思いました。 絵は言葉のひびき、リズムなども  
大切にしてほしいと思いました。
- ・ 是の専門は読む方、選ぶ方、見方、絵本を何冊か紹介して頂いたことで  
保育者と子どもを導く、楽しい時間と十分な絵本を保育者同士選んで  
下さり日々の保育に取り入れてほしいと思いました。





子どもに絵本を語る時、表紙・背景など細い所まで意識して読んで  
いせんで「作が」その部分も意識して読むととても楽しく読める気がしました。  
子どもと楽しむ共育できる絵本をできるだけたくさん読んであげたいと思っ  
ました。

